

# 松濤だより別冊

## 第十四号

東京佐賀県人会発行の「東京と佐賀」(年4回発行)のヤングやんぐコーナーに掲載された学生の記事を紹介します。

### 令和二年錦秋号

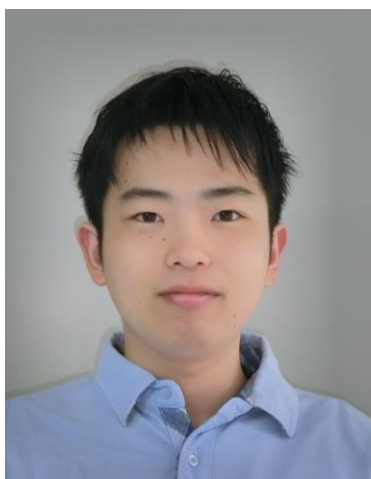
#### 「学生以上、

#### 社会人未満」

#### 松濤学舎

#### 吉松 佑起

筆者のプロフィール  
出身地 佐賀市  
出身校 佐賀東高等学校  
大学 日本大学  
芸術学部演劇学科



東京で中学の3年間を過ごした私は、大学進学で初めて東京暮らしをする学生とは違いあまり大きな期待を持たないまま上京してきた。大学生活は高校時代と変わらず授業を受け、アルバイトをし、寮での共同生活の毎日が続くだけだと思っていた。実際、そんな日々の中にあつて、ほとんどすべてのことを自分の責任で選択し、それを実行することは今まで言われたことをなんとなくやってきた私にとって想像以上に自由で、同時に不自由でもあつた。その中で失つたものもあるが、それ以上にここでしか得られなかった経験と思い出を手に入れた。特に1年の後期に大学を1ヶ月休んで参加した劇団の地方巡業公演や2〜3年時の上里での夏の野外バレエ公演等では、単なるアルバ

イトとは違つたりリアルで臨場感溢れる仕事の現場を肌で感じる体験をした。長期間寝食を共にしながら共通の目標に向かつて行動する様々な世代の仲間と、仕事はもちろん、それ以外の場所でも交流することなどこれまで絶対になかつた事であつた。そこでは仕事で「期間内に最大限を」「全てを一気にではなく逐一、細かく報告」と当り前に言われることの重要性を失敗も含め、身をもって学ぶことができた。また、私が知り得なかつた事を語り伝えるだけでなく、実際に一緒に行動し、体験させてくれる大きな度量を持った人の存在の大切さと有難さを痛感した。さらに、何時でも思い立ったらすぐに行動できる力をつけることが仕事やプライベートをメリハリの効いたものにし、精

力的に活動する上で大切だと知ることができた。これから大学四年の後期に入るが、今まで何かをしようとする自らの行動を起こした経験は少なく、親や友人に勧められた事を場当たりにこなしてきたように思う。人生において一番時間もお金も自分のために自由に使える学生生活の中で、もっと様々な事にチャレンジしてチャンスを生かせよかつたと悔やむ事も多くあつた。今、残された大学生活の中でやり残した事、やりたい事を具体的に見つけられないが、この四年間の学生生活での失敗や後悔も含めた経験や学びから、何事にも先延ばしをしない行動力を身につけてメリハリのある充実した人生を歩んで行きたいと思う。

# 令和三年新年号

## 「身近にある

## 気付き」

### 松濤学舎

### 原口 泰雅



筆者のプロフィール

出身地 佐賀市

出身校 佐賀西高等学校

大学 東京大学

理学部地球惑星物理学科

最近知って衝撃を受けたのですが、水とチョコだけで作るムースがあるそうです。作り方は単純で、少量のお湯に溶かしたチョコレートを、生クリームを泡立てるようにして攪拌するだけです。チョコレートの量はなるべくカカオ成分が多いほうがよい、と書いてありました。よく考えてみれば生クリームがほぼ脂肪分であるのと同じく、チョコレートも脂質の塊ですから、似たような性質を示すのも納得できます。こうしたキッチン科学は私の学んでいる地球科学において、卓上で行える実験手段として用いられることもあります。例えば寅丸ほか(2020)の行った実験では、火山の軽石に含まれる長く引き伸ばされた特徴的な気泡の成因を探るために、軽石と似た構造の(気泡が含まれるという意

味で)ロールパンを焼き、内部の気泡の分布が調べられました。これによると、管状の(マグマの通り道を再現したような)型で焼かれたパンでは、そうでないものと比べて気泡の合体が頻繁に起こり、気泡の数が少なく、かわりにサイズが大きくなっていることが確認されました。大きなシャボン玉が小さいものと比べてぐねぐねしているのを想像するとわかりやすいのですが、合体してできた大きな気泡は変形しやすく、引き伸ばされた形状の気泡が多く観察されました。

「キッチン地球科学」と検索すると、こうしたキッチンを題材とした研究の事例がもつと出てくると思いますが、地球規模の大きな現象でも、水が蒸発したり、氷になつたりといった相変化が起こらない場合には、長さ

や速さ、温度差などを適切に設定することで身近なスケールで再現できることが知られています。これは物理量の適切な比をとることで、方程式の形が同じになるためです。数百から数千キロに及ぶマントルの対流も、海洋の深層をめぐる大循環も、天気予報も、あるいはお風呂を追い炊きするのも、基本的には同じ方程式で記述されているってワクワクしませんか。